



琉球大学学術リポジトリ

University of the Ryukyus Repository

Title	与那国暹教授の人と業績
Author(s)	安藤, 由美
Citation	人間科学 = Human Science(5): 1-9
Issue Date	2000-03
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/13715
Rights	

与那国暹教授の人と業績

Professor Noboru Yonakuni's Personal History
and Academic Accomplishments

安藤 由美

Yoshimi Ando

長年本学で教鞭をとってこられた与那国暹教授が平成11年3月31日付けをもって定年退官された。

与那国暹教授は、昭和37年3月早稲田大学大学院文学研究科社会学専攻修士課程を修了（文学修士）後、同年4月琉球大学文理学部社会学科講師に採用され、昭和41年4月から1年間東京教育大学で内地研究員として社会学の研究に従事、昭和42年4月助教授、昭和63年4月琉球大学法文学部教授に昇任、37年にわたって研究、教育、大学行政に携わってこられた。その間、社会学専攻主任として、また平成5年10月の法文学部改組に際しては人文学科及び地域・社会科学系の初代主任として学部・学科の運営に重要な役割を果たされた。平成7年4月に大学院人文社会科学研究科が設置されてからは、同研究科応用法学・社会科学専攻社会関係教育研究領域において修士論文の研究指導を担当された。また、平成4年4月から2カ年間琉球大学評議員に任ぜられた。

教授は研究面では、多数の論文・著書を発表されており、学部学生の時からかかわってきたマックス・ウェーバー研究において、ウェーバーの『宗教社会学論集』全三巻や『経済と社会』の研究を中心に取り上げ、多くの論文を書かれた。とりわけ「伝統主義」、「合理化」、「近代化」、「契約」などにかかわる一連の研究は、後に『ウェーバーの社会理論と沖繩』（1993年 第一書房）および『ウェーバーにおける契約概念—契約思想の根源をさぐる』

(1997年 新泉社)の二著に結実した。前者はウェーバーの社会理論を出発点として沖縄の社会史の近代化と停滞性にかかわる問題を沖縄の伝統的な宗教や社会の在り方が近代化を阻む障壁になっていた事実を理論的に実証しようとした野心作であり、その学問上の業績を認められて、平成6年6月早稲田大学より博士(文学)の学位を授与された。後者はウェーバーの近代化(合理化)論や社会変革論に少なからず影響を及ぼした「契約」概念について、ウェーバーの宗教社会学の分野をはじめ『経済と社会』所収の「法社会学」、「支配の諸類型」、「支配の社会学」、「都市社会学」などの広範な分野から契約概念を引き出し検討を加え、まだ謎の多い契約思想の根源に迫ろうとするものである。

一方、教授は現地調査にもとづく実証的研究の分野では、1970年から73年まで復帰の年をはさんで4年間にわたって実施された九学会連合による沖縄調査に日本社会学会調査班のメンバーとして参加、その成果は、『沖縄—自然・文化・社会』(1976年 弘文堂)に収められている。ひきつづき1975年度から実施された九学会連合による二度目の奄美諸島総合調査にも日本社会学会調査班として参加、「奄美の土地制度」(『奄美—自然・文化・社会』1982年 弘文堂 所収)や『奄美農村の構造と変動』(1981年 お茶の水書房 所収)などの論著を生み出した。

この日本社会学会の調査班のメンバーとして「沖縄」および「奄美」の現地調査に参加されて以来、日本社会学会とのつながりは強く、平成8年11月、琉球大学で開催された第69回「日本社会学会大会」では、教授は大会実行委員長として大会を成功へと導かれた。

学外では平成2年沖縄郵政管理事務所(郵政省)の委託を受け「沖縄における情報通信基盤整備に関する調査委員会」の委員長として先島地域の民放テレビ放送の必要性と可能性についての総合調査に参加され、最終的には「沖縄県先島地区の民放テレビジョン放送等の難視聴の実態及びその対策に関する調査研究」(報告書 1991年)ならびに「沖縄における情報通信基盤

整備に関する総合調査』(報告書 1992年)として結実した。同報告書は先島地域における民間テレビジョン放送実現の基礎資料となり、その功績により平成4年6月、沖縄郵政管理事務所長より表彰された。

同教授の講義を受講した子弟は、官・産・学界等の多方面で活躍している。

上述してきたような、長年の功績を認められて、教授は平成11年4月に琉球大学名誉教授に推薦された。

定年退官後の教授は、大学行政、教育の仕事から解放されて、ご研究三昧の毎日を送っておられると伺っている。常々教授は、沖縄戦後社会史を社会学の立場からまとめたいとおっしゃっておられたが、そのライフワークのご進展をわれわれは見守りつつ、今後も学外からのご指導、ご協力をお願いすると共に、教授のいっそうのご健康、ご活躍を心からお祈りしたい。

与那国暹教授略歴および主要著作目録

<略 歴>

- 昭和9年1月22日 沖縄県竹富町字竹富にて出生
昭和35年3月 早稲田大学第一文学部哲学科社会学専修卒業
昭和37年3月 早稲田大学大学院文学研究科社会学専攻修士課程修了
(文学修士)
平成6年6月 博士(文学)早稲田大学大学院

<職 歴>

- 昭和37年4月 琉球大学文理学部社会学科講師に採用
昭和41年4月 長期研修(東京教育大学・研究テーマ<方法論としての
構造機能分析>昭和42年3月31日まで)
昭和42年4月 琉球大学法文学部社会学科助教授に昇任
昭和45年4月 厚生補導委員会委員(昭和46年4月まで)
昭和45年10月 普及講座担当講師(昭和46年2月まで)
昭和46年8月 南北総合科学研究所設立準備委員会委員(任期は答申
書の作成まで)
昭和50年4月 教務委員会委員(昭和52年3月まで)
昭和63年4月 琉球大学法文学部教授に昇任
平成4年4月 琉球大学評議員(平成6年3月まで)
平成7年4月 琉球大学大学院人文科学研究科担当
平成11年3月 定年により退職
平成11年4月 琉球大学名誉教授

<表 彰 等>

- 昭和57年11月 昭和57年度琉球大学永年勤続表彰

平成4年6月 先島地域情報通信施設整備推進事業の基礎調査研究に対する表彰（沖縄郵政管理事務所より）

<学 会 等>

昭和37年5月 日本社会学会会員「現在に至る」
昭和44年4月 早稲田大学社会学会会員「現在に至る」
昭和47年5月 西日本社会学会会員「現在に至る」
昭和50年4月 地域社会学会会員「現在に至る」
昭和50年11月 日本村落研究学会会員「現在に至る」

<学 外 委 員 等>

昭和45年2月 国民年金審議会委員（昭和47年2月まで）
昭和45年2月 厚生年金保険審議会委員（昭和47年2月まで）
昭和57年4月 家庭教育総合セミナー事業の期間研究委員（昭和58年3月まで）
昭和60年9月 沖縄県土地改良普及員資格試験審査委員（昭和60年10月まで）
平成2年12月 沖縄県先島地区の民法テレビジョン放送等の難視聴の実態及びその対策に関する調査研究会委員（沖縄郵政管理事務所、平成3年3月まで）
平成4年1月 沖縄における情報通信基盤整備に関する調査委員会委員長（沖縄郵政管理事務所、平成4年4月まで）

<主 要 著 作 目 録>

（著書）

昭和50年1月 沖縄資料集成（共著） グリーンライフ社
昭和51年2月 沖縄—自然・文化・社会—（共著） 弘文堂

与那国逕教授の人と業績

昭和54年 7月	沖縄の村落共同体論（編著）	至言社
昭和56年 2月	奄美農村の構造と変動（共著）	お茶の水書房
昭和57年 2月	奄美—自然・文化・社会—（共著）	弘文堂
平成 5年 8月	ウェーバーの社会理論と沖縄	第一書房
平成 9年 3月	ウェーバーにおける契約概念 —契約思想の根源をさぐる—	新泉社

（学術論文）

昭和38年 3月	旧約宗教の形成過程における文化の問題（上） 琉球大学文理学部紀要人文・社会篇第7号
昭和39年 6月	旧約宗教の形成過程における文化の問題（下） 琉球大学文理学部紀要人文・社会篇第8号
昭和40年 5月	沖縄の固有宗教研究の主流と二、三の問題点について（Ⅰ） 琉球大学文理学部紀要社会篇第9号
昭和41年 6月	沖縄の固有宗教研究の主流と二、三の問題点について（Ⅱ） 琉球大学文理学部紀要社会篇第10号
昭和42年 3月	沖縄の固有宗教研究の主流と二、三の問題点について（Ⅲ） 琉球大学文理学部紀要社会篇第11号
昭和43年 4月	沖縄の固有宗教研究の主流と二、三の問題点について（Ⅳ） 琉球大学法文学部紀要社会篇第12号
昭和44年 3月	沖縄の固有宗教研究 —鳥越理論の問題点— 「社会学年誌」第10号早稲田大学社会学会発行
昭和46年 8月	沖縄原始宗教のカミ観念について —仲原善忠「セズの信仰について」に関連して— 「沖縄文化研究」第1号琉球大学沖縄文化研究所発行
昭和46年	沖縄学における宗教研究と日琉同祖論 「沖縄経験」第1号「沖縄経験」刊行会

- 昭和47年 2月 沖縄の土地制度と農村の構造的特質との関連についての
一考察
琉球大学法文学部紀要社会篇第16号
- 昭和47年 6月 古琉球の宗教と政治 「中央公論」中央公論社
- 昭和49年 3月 沖縄の村落と農民意識 一東風平村世名城部落調査報告一
「人類科学」第26号九学会連合発行
- 昭和50年12月 旧約聖書における原始信仰の断片
琉球大学法文学部紀要社会篇第18号
- 昭和51年 3月 奄美と沖縄・農村の社会的特質の相違について
一近世末における土地制度と農民層の分化を中心に一
「人類科学」第28号九学会連合発行
- 昭和52年 3月 ヤハウイズムの発端について
一M.ウェーバー「契約」論を中心に一
琉球大学法文学部紀要社会篇第19号
- 昭和53年 3月 預言者運動
一M.ウェーバー「預言者」論を中心に一
琉球大学法文学部紀要社会学篇第20号
- 昭和53年 5月 「琉球処分」と宗教政策
「新沖縄文学」第38号沖縄タイムス社
- 昭和53年 9月 「琉球処分」と宗教政策（続稿）
一ユタの弾圧と裁判をめぐって一
「新沖縄文学」第39号沖縄タイムス社
- 昭和55年11月 地割制下の村と分業について
琉球大学法文学部紀要社会学篇第23号
- 昭和56年11月 沖縄の近代化と伝統的生産組織
一糖業のばあい一
琉球大学法文学部紀要社会学篇第24号

- 昭和57年11月 巫覡と預言者の世界
—沖繩の呪術・宗教構造の一断面—
琉球大学法文学部紀要社会学篇第25号
- 昭和59年11月 M. ウェーバーにおける宗教の「独自性」についての
—考察—唯物史観批判に関連して—
琉球大学法文学部紀要社会学篇第27号
- 昭和60年3月 復帰前の拠点開発構想とその背景について
琉球大学法文学部紀要昭和59年度特定研究紀要「戦後沖繩
における社会行動と意識に関する研究」所収
- 昭和61年3月 「預言者」と政治的・社会的条件について
—M. ウェーバー「古代ユダヤ教」を中心に—
琉球大学法文学部紀要社会学篇第28号
- 昭和62年3月 近世沖繩経済の実状について
—「市」と実物交換を中心に—
琉球大学法文学部紀要社会学篇第29号
- 昭和63年3月 ウェーバーにおける「契約」概念の役割と重要性について
—‘Verbrüderung’を中心に—
琉球大学法文学部紀要社会学篇第30号
- 平成元年3月 マックス・ウェーバーにおけるアジア的「停滞性」論の素描
—‘Traditionalismus’を中心に—
琉球大学法文学部紀要社会学篇第31号
- 平成2年3月 沖繩の近代化における「ゲゼルシャフト」の不振について
—M. ウェーバー‘Vergesellschaftung’の視点から—
琉球大学法文学部紀要社会学篇第32号
- 平成3年3月 「沖繩疲弊」再考
—文献資料による社会学的解釈の試み—

琉球大学法文学部紀要社会学篇第33号

- 平成5年3月 マックス・ウェーバーにおける「近代化」論の再検討
—沖繩の近代化を念頭において—

琉球大学法文学部紀要社会学篇第35号

- 平成7年3月 マックス・ウェーバーにおける契約社会論の素描
—ウェーバーの「法社会学」を中心に—

琉球大学法文学部紀要地域・社会科学系篇創刊号

- 平成8年3月 マックス・ウェーバーの「ゼクテ」論再考
—誓約集団としてのゼクテ—

琉球大学法文学部紀要地域・社会科学系篇第2号

- 平成9年3月 ウェーバーの「封建契約」の概念について
—ウェーバーの「支配の諸類型」「支配の社会学」
を中心に—

琉球大学法文学部紀要地域・社会科学系篇第3号